

抗がん剤の効果は変わらないんです。抗がん剤は日本中どこでも同じ値段で同じ効果があります。そして承認された瞬間から使えるのです。悪いところは、手術や放射線はある一定期間で治療は終了しますが、抗がん剤の治療期間は長く続くことが多く、どうしても副作用と闘う期間も長くなり、だんだん疲れてくることです。

いま当院での治療数は年間外来で、5000件、入院で2000件程です。私が出来た時の倍近くなっています。

先進医療

「厚生労働省が先進医療と認めて、混合診療として受けてもよい」ということです。似たような言葉に先端医療がありますが。国が先進医療ということばを使っていますので、これに従います。

当院では今はやりの遺伝子診断のような厚生労働省に指定されている先進医療は行っていませんが、新治療の開発のために臨床試験に参加するという形で、貢献しております。現在、mFOLFEX6またはCapOXとアバチンという抗がん剤の組み合わせが大腸癌の標準治療とされており、IRISとアバチンを組み合わせた治療の方が効果が高そうということがわかったため、全国規模で行われている臨床試験に参加しています。

臨床試験に積極的に参加し、新しい治療を開発していくことは、先進医療とはまた別の形で新しい医療を作っていくことと考えています。

PET検査

PET検査については僕はあまり専門



ではないのですが、腫瘍内科の観点からPET検査についてどのように考えているかをお話します。

がんの経過のうち、治療が可能な早期がんの期間はおよそ1〜2年です。もし早期がんのうちPET-CTで見つけたいということであれば、1〜2年に一度は検査をしなければならぬということになります。問題点もありません。PET-CTで

質問に答える

は早期の胃がんや肝臓がんは見つかりにくいことがわかってきます。ですから、PET-CTでわかりにくい臓器については胃力メラやエコー検査などで、弱点をカバーするような検査が必要です。当院では年間1400件程行われていきます。検査のみでは年間90件程です。PET-CTに限らず健康診断を早めにかけて、進行がんになつて治療が受けられないというまえに、何とか早め早い機会に見つけていただいで治していただきたいと思えます。

Q 僕の身近で起こったことで、びっくり仰天している所なのですが、今65歳で肺がんを罹った人のことです。1年前に話を聞いた時は余命半年でステージ4ぐらいと云



われ、涙をぼろぼろ流してはなしてしました。それが十日ほど前にお会いした時、まるきり違うんです。現役で僕が付き合っていたころよりも、もっと澁刺としていて。何があつたんですかと聞いたら、この病院で、去年の10月に抗がん剤治療をしたら、がん細胞がものすごく小さくなったとのことでした。それでどうしてこのような劇的な変化がおこっているのか伺いたいです。

A 講師 すごく難しいところなんです。昔に比べて何が違ってきているかと。今、イレッサやタルセバという抗がん剤を、ある特定の患者さんに使うと、8割くらいの人に効果が出るということがわかっています。最近NHKでも遺伝子のお話をやっています。まだまだ発展途上ですけれども少しづつ進んでいると思います。